水辺の生きものたちは、今･･･　2015 年

札幌新道の大曲通～厚別東通り間の延長工事が完了し、'15 年 4 月 29 日に全面開通しました。新道周辺の自然環境と貴重な水辺の生きものたちの保全を目指した私たちの活動は、新道の全面開通で一区切りとなります。この地域の小さな池の保全策と、そこに生息するエゾホトケドジョウの保護に当初から関わり、研究者としての立場から助言とご指導を頂いた桑原さんに、これまでの経過とエゾホトケの現状について伺いました。

代替池調査　'14 年 6 月

工事中　'14 年 10 月

エゾホトケ池　'15 年 9 月

やはり、エゾホトケは変なやつ　　桑原禎知

（生態調査/映像　酪農学園大学･札幌市立大学非常勤講師）

10 年ほど前のこの通信で、エゾホトケを"変なやつ"と紹介しました。大きさが7センチぐらいの8本ヒゲの魚で、湿地の池や細流を好み、網を入れるのもためらわれるような淀んだ沼や水路でも見かけます。きれいな流れの川ではめったに採れませんが、その川のすぐ横の池に沢山いることもあるので、何かのタイミングで川を行き来しているようです。

札幌にはエゾホトケは元々多かったようで、生息環境の最初の報告も平岸辺りでの採集によるものです。もっとも、その水路は今は存在しません。エゾホトケに限らず、谷地や小川に棲む小魚の生息地は札幌の発展と共に埋めたてられ、宅地や農地に変わりました。平岡地区でも、生息場所は平岡公園内の池など数カ所になっています。その 1 か所で工事が計画され、事前調査、工事への対策、事後調査を行いました。約 10 年前の事前調査では、その池にはフナ属、フクドジョウ、エゾホトケの 3 種の魚が生息していました。しかし、10 年後の工事直前にはエゾホトケ 1 種だけになっていました。2 種は自然に絶滅したものと思われます。

工事への対策としては主に2つ、一つは池を半分に仕切って、工事の及ばない隔離区に工事区から魚を都度移動させました。もう一つは近くに代替池を造って試験移植しました。しかし、エゾホトケは代替池を気に入らなかったようで、増水時に池の下流側に大脱走してしまいました。また、工事期間中に隔離区内でエゾホトケの産卵と稚魚が確認されましたが、昨年 9 月の大雨で流れ込んだ大量の土砂で隔離区の半分が埋まるという想定外の問題が発生しました。工事完了直後の池ではわずか数個体しか採れず、真っ青になりました。

一冬明けて、今夏には生まれたばかりの稚魚が確認され、今秋には昨春生れと思われる若い個体も含めて 30 尾ほどが採れたので、来春には繁殖して個体数が増加すると予想しています。他の魚だったら全滅していたかもしれない過酷なかく乱をエゾホトケの習性が耐え抜いたとも言えます。エゾホトケの"変さ"に救われました。池岸植生が安定する数年後にはエゾホトケの数もだいぶ増えると思います。一点気がかりなのは、この池から下流の川にエゾホトケが流出することはあっても、この池に遡上してくることは構造上不可能だということ。他の生息地も含めた今後の課題です。

2015.10.30 に捕獲されたエゾホトケ

発行　**平岡どんぐりの森**　（代表　荒井美和子）

〒004-0033　札幌市厚別区上野幌 3 条 5 丁目12－8　　TEL FAX　011－896－0058

ホームページ　http://dongurinomori.web.fc2.com/